

とちぎの子ども「確かな学力」向上のために

～令和6年度 全国学力・学習状況調査結果から～

令和6（2024）年 栃木県教育委員会

この資料は、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を基に、本県の特徴や指導に当たってのポイントをまとめたものです。本資料を活用して、「教科に関する調査」や「質問調査」の結果から見られる県全体の傾向を把握するとともに、とちぎの子ども「確かな学力」の向上に向けた指導改善にお役立てください。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 教科全体の調査結果

教科全体としては、全国平均と同程度と捉えることができます。教科別に見ると、中学校数学においては、平成31年度に「知識」と「活用」の問題が一体化した出題形式になって以降初めて、全国平均正答率を上回りました。また、小学校国語、中学校国語においては、全国平均をやや上回る結果となりました。

栃木県の調査結果と自校の調査結果を比較して、共通点や差異点を分析し、日々の学習活動の改善・充実を図っていきましょう。



○ 栃木県公立（上段）と全国公立（下段）の平均正答率

〈小学校第6学年〉

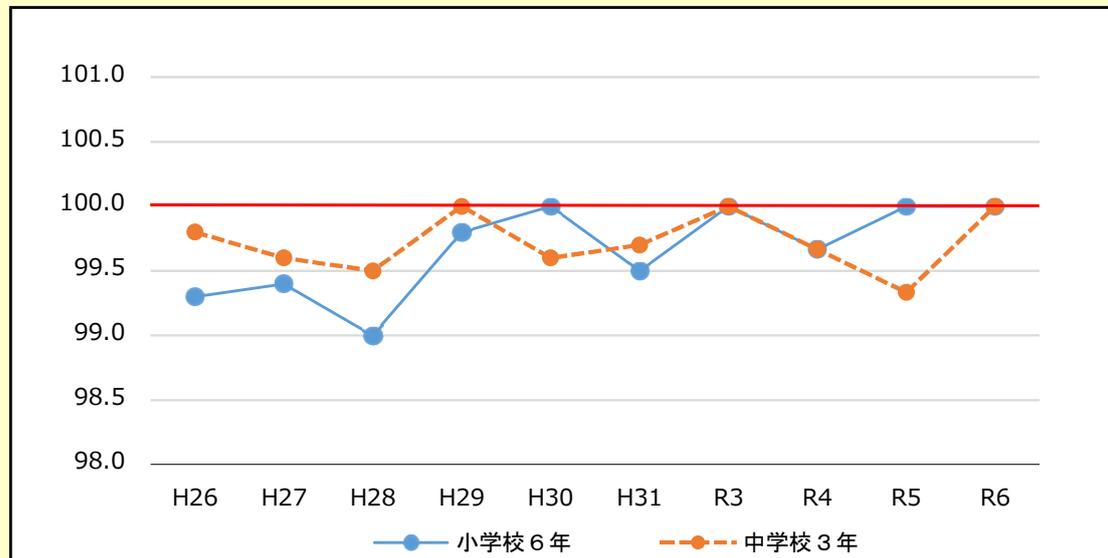
| 問題 | H31 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|----|----------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
| 国語 | 64.0 〔63.8〕 | 65 〔64.7〕 | 65 〔65.6〕 | 67 〔67.2〕 | 68 〔67.7〕 |
| 算数 | 65.2 〔66.6〕 | 69 〔70.2〕 | 62 〔63.2〕 | 63 〔62.5〕 | 62 〔63.4〕 |
| 理科 | | | 64 〔63.3〕 | | |

- ※ 令和2年度は、全国学力・学習状況調査を実施していない。
- ※ 国の方針に従い、令和3年度より県の平均正答率を整数値で示している。

〈中学校第3学年〉

| 問題 | H31 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|----|----------------|--------------|--------------|--------------|---------------------|
| 国語 | 73.0 〔72.8〕 | 65 〔64.6〕 | 69 〔69.0〕 | 70 〔69.8〕 | 59 〔58.1〕 |
| 数学 | 59.1 〔59.8〕 | 57 〔57.2〕 | 49 〔51.4〕 | 50 〔51.0〕 | 53 〔52.5〕 |
| 理科 | | | 50 〔49.3〕 | | |
| 英語 | 55.0 〔56.0〕 | | | 44 〔45.6〕 | |

○ 栃木県（公立）の標準化得点の平均値の推移



- ※ 標準化得点とは、全国平均が100、標準偏差が10となるように標準化された得点です。全国学力・学習状況調査は、年度ごとに設問数や問題の難易度を揃えていないため平均正答率による年度間の比較はできませんが、標準化得点により、過去の調査結果との相対的な比較をすることが可能となります。

小学校においては、平成26年度から少しずつ右肩上がりとなり、ここ数年は横ばいの状態が見られます。

中学校においては、ここ数年下降傾向でしたが、今年度は上昇しています。



(2) 設問別調査結果

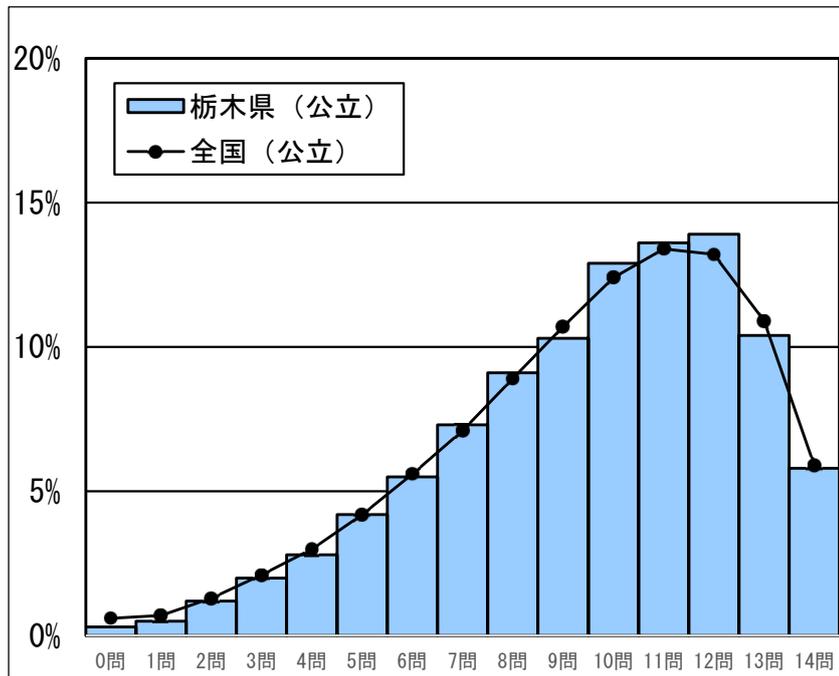
各教科の評価の観点や問題形式等ごとの平均正答率、正答数分布グラフ、設問別正答率について、栃木県（公立）と全国（公立）とを比較しながら見ていきましょう。特徴的な設問については、教科ごとに取り上げ右のページで解説しています。課題解決に向けて、これからの授業をどのように工夫・改善していくか、自校の取組の参考にしてください。



① 小学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) |
|-----------|--------------|--------------------|----------|
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 4 64.2 |
| | | (2)情報の扱い方に関する事項 | 1 86.6 |
| | | (3)我が国の言語文化に関する事項 | 1 77.6 |
| | 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 3 58.6 |
| | | B 書くこと | 2 70.3 |
| | | C 読むこと | 3 72.2 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 6 70.2 | |
| | 思考・判断・表現 | 8 66.6 | |
| 問題形式 | 選択式 | 10 70.1 | |
| | 短答式 | 2 58.5 | |
| | 記述式 | 2 68.2 | |



〈設問別正答率〉

※ 言葉：言葉の特徴や使い方に関する事項
話す聞く：話すこと・聞くこと

情報：情報の扱い方に関する事項
書く：書くこと

言語文化：我が国の言語文化に関する事項
読む：読むこと

| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の内容 | | | | | | 評価の観点 | | | 問題形式 | | | 正答率 | | 無解答率 | |
|-------|--|-----------|------|------|--------------|----|----|-------|--------|----|------|----|----|--------|-------|------|------|
| | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 知識技能 | 思考判断表現 | 態度 | 選択 | 短答 | 記述 | 栃木県(%) | 全国との差 | | |
| | | 言葉 | 情報 | 言語文化 | 話す聞く | 書く | 読む | | | | | | | | | | |
| 1一 | 学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する | | | | 5・6ア | | | | ○ | | | | | | 61.8 | -0.7 | 0.2 |
| 1二(1) | オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する | 5・6イ | | | | | | | ○ | | | | | | 75.9 | 0.0 | 0.2 |
| 1二(2) | オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する | | | | 5・6ウ | | | | ○ | | | | | | 51.6 | -1.3 | 0.2 |
| 1三 | オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する | | | | 5・6ア | | | | ○ | | | | | | 62.5 | -1.3 | 0.4 |
| 2一(1) | 高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する | | | | 5・6ア | | | | ○ | | | | | | 81.2 | 0.9 | 0.3 |
| 2一(2) | 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する | | 5・6イ | | | | | | ○ | | | | | | 86.6 | -0.3 | 0.3 |
| 2二 | 【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く | | | | 5・6ウ | | | | ○ | | ○ | | | | 59.3 | 2.7 | 4.0 |
| 2三ア | 【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ) | 5・6工 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | 39.8 | -3.6 | 14.2 |
| 2三イ | 【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる) | 5・6工 | | | | | | | ○ | | | ○ | | | 77.2 | 1.2 | 6.6 |
| 3一 | 【物語】の一文の中の「かかやいています」の主語として適切なものを選択する | 3・4カ | | | | | | | ○ | | | | | | 64.1 | 1.8 | 0.8 |
| 3二(1) | 「オニグモじいさん」が「川の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する | | | | 5・6イ | | | | ○ | | | | | | 66.2 | -0.7 | 1.2 |
| 3二(2) | 【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する | | | | 5・6工 | | | | ○ | | | | | | 73.4 | 0.9 | 1.4 |
| 3三 | 【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く | | | | 5・6工 | | | | ○ | | | ○ | | | 77.0 | 4.4 | 9.5 |
| 3四 | 【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する | | 5・6オ | | | | | | ○ | | | | | | 77.6 | 3.0 | 4.1 |

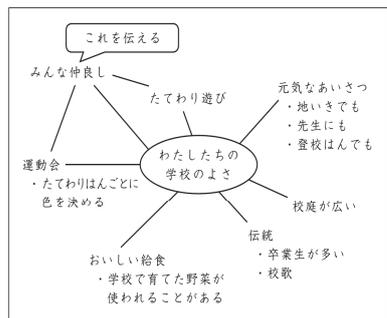
【小学校国語 2-2】

出題の趣旨： 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

平均正答率 県 86.6% (全国 86.9%) 無解答率 県 0.3% (全国 0.9%)

2

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生まで同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



高山さん

＜類型から見られる本県児童の実態＞

○ 正答である選択肢2の反応率は、86.6%である。本設問は、【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものを選択する問題を取り上げている。この結果から、【高山さんのメモ】における情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し適切なものを選択することについては、できている児童が多いと考えられる。一方、誤答である選択肢1、3、4の反応率の合計は13.1%であり、いずれも中央の言葉と関連する言葉を線でつないでいることを捉えることができなかつたと考えられる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 指導に当たっては、様々な図示の方法に触れることを通して、児童がそれぞれの方法で考えを明確にし、思考をまとめたりすることができることを理解し、使うことができるようにすることが大切である。図示の方法については、語句と語句とを関係付けたり、一定の観点に基づいて順序立てたりするために線を用いて結ぶ表し方や、似ている事柄をまとめたり、よい点と問題点を分けたりするために丸で囲む表し方などが考えられる。

【小学校国語 2二】

出題の趣旨： 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

平均正答率 県 59.3% (全国 56.6%) 無解答率 県 4.0% (全国 4.9%)

＜類型から見られる本県児童の実態＞

○ 本設問の正答率は59.3%である。一方、「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書いていない児童は32.1%おり、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。これらの児童は、書く目的や意図が明確でなく、「たてわり遊び」のよさについて書く必要があることを認識していなかつたと考えられる。また、「たてわり遊び」のよさを認識しているものの、そこから自分の考えをもつことができず、事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまった児童がいたと考えられる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 指導に当たっては、文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めることができるようにすることが大切である。そのためには、取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにする必要がある。その際、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているかを確認する場面を設定することも大切である。

(2) 「高山さんのメモ」の書き表し方を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。

- 1 出来事が起こった順に言葉を線でつないでいる。
- 2 中央の言葉と関係する言葉を線でつないでいる。
- 3 似ていることがらをまとめて丸で囲んでいる。
- 4 よい点と問題点を分けて丸で囲んでいる。

高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、「高山さんのメモ」と「高山さんの考え」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えなさい。

（条件）

- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」
わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。
「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対決で行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキょうきの作戦を考えたりします。「みんなてつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになることだと思います。
「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールを、なげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

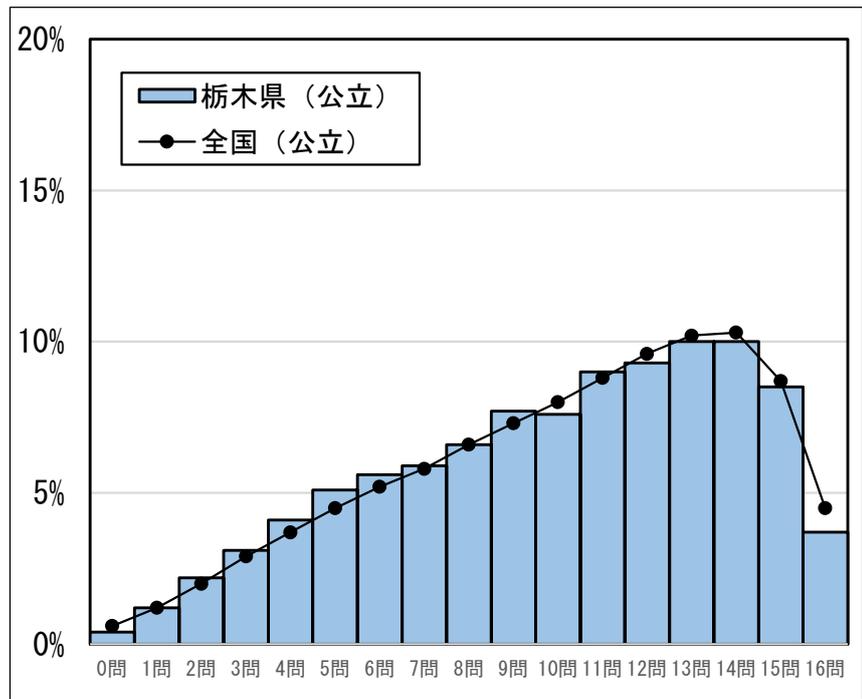
「たてわり遊び」について
6年生がくふうしていること
○遊びたいことを下級生に聞く
○ルールをくふうする
ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる
下級生に聞いたこと
○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
○4年生 みんなが楽しくてうれしかった

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きなさい。

② 小学校 算数

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

| 分類 | 区分 | 対象 問題数 (問) | 平均 正答率 (%) |
|---------------|----------|------------------|------------------|
| 学習指導要領 の領域 | A 数と計算 | 6 | 64.7 |
| | B 図形 | 4 | 66.3 |
| | C 測定 | 0 | |
| | C 変化と関係 | 3 | 48.7 |
| | D データの活用 | 4 | 61.5 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 9 | 71.4 |
| | 思考・判断・表現 | 7 | 50.7 |
| 問題形式 | 選択式 | 5 | 74.4 |
| | 短答式 | 7 | 60.4 |
| | 記述式 | 4 | 50.6 |



〈設問別正答率〉

| 問題 番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の領域 | | | | | 評価の観点 | | | 問題形式 | | | 正答率 | | 無解答率 (%) |
|----------|--|--------------|--|----|------------------------------|------------|----------|----------------|----|------|----|----|------------|-----------|-------------|
| | | 数と 計算 | 図形 | 測定 | 変化と 関係 | データ の活用 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 態度 | 選択 | 短答 | 記述 | 栃木県 (%) | 全国 との差 | |
| 1 (1) | 問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ | 2(2) ア(エ) | | | | | ○ | | | ○ | | | 58.0 | -4.1 | 0.1 |
| 1 (2) | はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ | 3(7) ア(ア) | | | | | ○ | | | ○ | | | 89.9 | 1.4 | 0.1 |
| 2 (1) | $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く | 3(3) イ(ア) | | | | | ○ | | | | ○ | | 58.6 | 1.7 | 3.1 |
| 2 (2) | 除数が $1/10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ | 5(3) ア(ア) | | | | | ○ | | | ○ | | | 67.4 | -1.7 | 0.7 |
| 3 (1) | 作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ | | 4(2) ア(ア) ア(ウ) | | | | ○ | | | ○ | | | 84.9 | -0.6 | 0.3 |
| 3 (2) | 円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ | | 5(1) ア(エ) | | | | ○ | | | ○ | | | 72.0 | 0.7 | 0.4 |
| 3 (3) | 直径2.2cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く | | 3(1) ア(ウ) イ(ア) 5(4) ア(イ) イ(ア) | | | | ○ | | | | ○ | | 36.6 | 0.1 | 8.8 |
| 3 (4) | 五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く | | 5(2) ア(ア) イ(ア) | | | | ○ | | | | ○ | | 71.7 | -0.3 | 1.7 |
| 4 (1) | $540 \div 0.6$ を計算する | 5(3) ア(イ) | | | | | ○ | | | | ○ | | 65.9 | -4.2 | 2.6 |
| 4 (2) | 3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く | | | | 5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア) | | ○ | | | | ○ | | 67.9 | -2.1 | 3.1 |
| 4 (3) | 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く | | | | 5(2) ア(ア) イ(ア) | | ○ | | | | ○ | | 28.1 | -2.9 | 1.6 |
| 4 (4) | 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く | | | | 5(2) ア(ア) | | ○ | | | | ○ | | 50.0 | -4.1 | 4.2 |
| 5 (1) | 円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く | | | | 5(1) ア(ア) | | ○ | | | | ○ | | 81.1 | 0.3 | 1.4 |
| 5 (2) | 示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く | | | | 3(1) ア(ア) | | ○ | | | | ○ | | 72.9 | -0.4 | 3.3 |
| 5 (3) | 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く | | | | 3(1) イ(ア) 4(1) ア(イ) | | ○ | | | | ○ | | 43.8 | -0.2 | 12.1 |
| 5 (4) | 示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く | 2(1) イ(ア) | | | 3(1) ア(ア) | | ○ | | | | ○ | | 48.3 | -1.0 | 3.0 |

【小学校算数 1 (1)】

出題の趣旨： 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる。

平均正答率 県 58.0% (全国 62.1%) 無解答率 県 0.1% (全国 0.2%)

1

ゆうまさんたちは、折り紙で遊んでいます。

(1) ゆうまさんは、折り紙を72枚持っています。

ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。

こはるさんが持っている折り紙の枚数を求める式を、下のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア $72 + 28$

イ $72 - 28$

ウ 72×28

エ $72 \div 28$

＜類型から見られる本県児童の実態＞

- 正答である選択肢アの反応率は58.0%であった。一方、誤答である選択肢イを選んだ児童の反応率は35.9%である。このように解答した児童は、「少ない」という言葉から形式的に減法の式を選んだと考えられる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

- 数量の関係をつかみにくい問題を解決する際、問題場面に沿って数量を図や表に表すことで、数量の関係が捉えやすくなり、正しい計算を見出しやすくなることを確認し、数学的な表現である図や表に表すことによさに気付かせることが大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問のように数量の関係をつかみにくい問題の解決において、テープ図などを用いて数量の関係を整理する活動が考えられる。その際、問題を読み、「多い」のだから加法、「少ない」のだから減法、のように形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、その図と問題文のそれぞれの数量の関係を比較し、何を問われているのかを明確にすることが大切である。また、作成した図を基にして、数量を式に表すことができるようにすることも大切である。

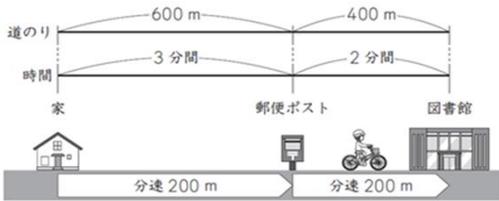
このような活動を通して、問題解決の過程や結果において、言葉、図、表、式などの数学的表現を用いて考えたり伝え合ったりすることのよさを、実感を伴って理解することができるよう指導を工夫したい。

【小学校算数 4 (4)】

出題の趣旨： 速さの意味について理解しているかどうかをみる。

平均正答率 県 50.0% (全国 54.1%) 無解答率 県 4.2% (全国 4.6%)

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。

答えを書きましょう。

＜類型から見られる本県児童の実態＞

- 正答である分速200mと解答した児童の反応率は50.0%であった。一方、誤答である分速400mと解答した児童は28.1%である。このように解答した児童は、自転車の速さが、家から郵便ポストまで分速200m、郵便ポストから図書館まで分速200mであることから、家から図書館までは、合わせて分速400mになると誤って捉えていると考えられる。

また、問題場面の数量を用いているが、速さを求めることができていると考えられる解答も一定数見られることから、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方についての理解に課題が見られる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

- 日常生活において、人の走る速さや乗り物が移動する速さを、「速い」、「遅い」などと捉えて表現する経験を基に、速さを量として表すには、移動する道のりと、移動にかかる時間という二つの量が必要であることを、再度確認する必要がある。その上で、移動する道のりと移動にかかる時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるように指導することが重要である。

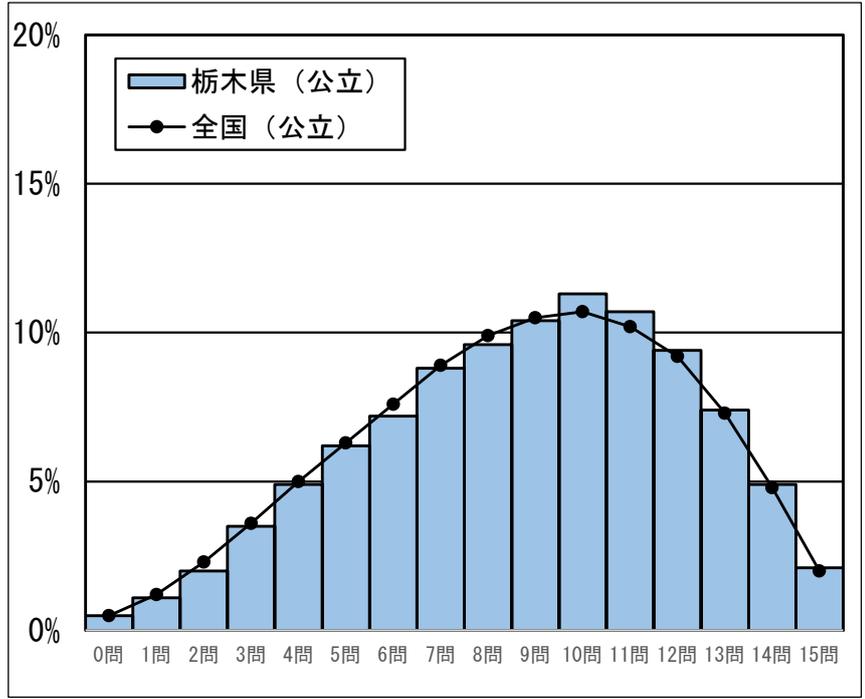
指導に当たっては、単に家から図書館までの道のりと時間を基に、(速さ) = (道のり) ÷ (時間) を計算して求められることを確認するだけでなく、分速200mがどのようなことを表しているのかを確認することが大切である。その際、本設問の場合は、家から郵便ポスト、郵便ポストから図書館までの道のりと時間を読み取り、1分間あたりに進む道のりがいつでも200mで変わらないことを捉えることができるようにすることが大切である。

また、誤答である「分速400m進む自転車」と正答である「分速200m進む自転車」の例を比較し、例えば、同じ時間進んだ場合はどちらが遠くまで移動するのか、あるいは、同じ道のりを進む場合にはどちらが早く着くのかなど、速さが違っているとどうなるのかを目的に応じて考えさせることも大切である。

③ 中学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）

| 分類 | 区分 | 対象 問題数 (問) | 平均 正答率 (%) |
|-----------|--------------|--------------------|------------------|
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 3 58.5 |
| | | (2)情報の扱い方に関する事項 | 2 59.9 |
| | | (3)我が国の言語文化に関する事項 | 1 75.4 |
| | 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 3 60.4 |
| | | B 書くこと | 2 66.8 |
| | | C 読むこと | 4 48.7 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 6 61.8 | |
| | 思考・判断・表現 | 9 56.6 | |
| 問題形式 | 選択式 | 9 61.4 | |
| | 短答式 | 3 62.0 | |
| | 記述式 | 3 47.4 | |



〈設問別正答率〉

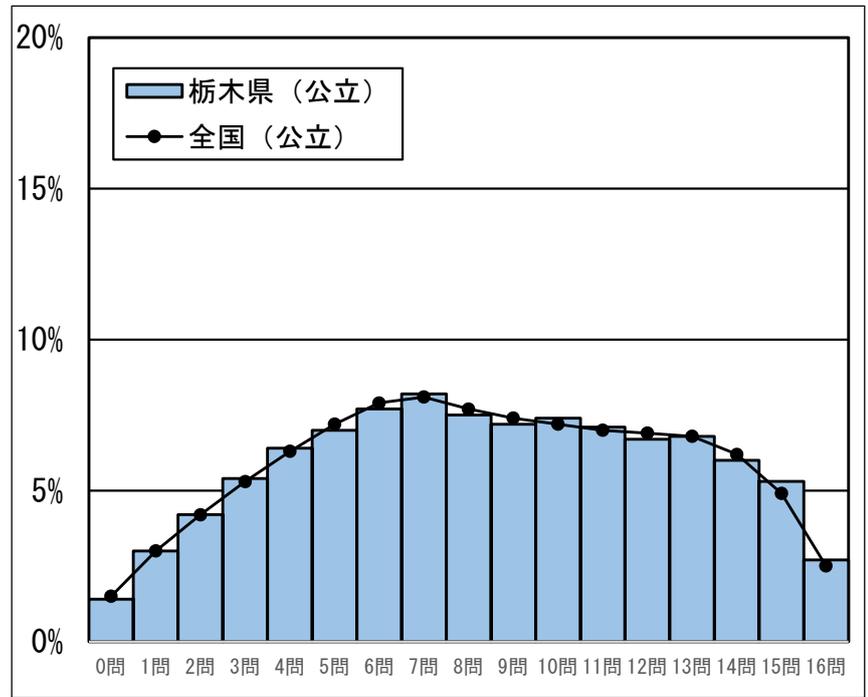
※ 言葉：言葉の特徴や使い方に関する事項
 情報：情報の扱い方に関する事項
 言語文化：我が国の言語文化に関する事項
 話す聞く：話すこと・聞くこと
 書く：書くこと
 読む：読むこと

| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の内容 | | | | | | 評価の観点 | | | 問題形式 | | | 正答率 | | | 無解答率 (%) |
|------|--|-----------|--------|---------------|--------------|--------|----|-------|--------|----|------|----|----|---------|-------|---------|----------|
| | | 知識及び技能 | | | 思考力、判断力、表現力等 | | | 知識技能 | 思考判断表現 | 態度 | 選択 | 短答 | 記述 | 栃木県 (%) | 全国との差 | 栃木県 (%) | |
| | | 言葉 | 情報 | 言語文化 | 話す聞く | 書く | 読む | | | | | | | | | | |
| 1一 | 話合いの中の発言について説明したのとして適切なものを選択する | | | | 1 工 | | | ○ | | | ○ | | | 65.4 | 2.2 | 0.3 | |
| 1二 | 話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む | | | | 2 ウ | | | ○ | | | ○ | | | 68.5 | 0.0 | 3.3 | |
| 1三 | 話合いの中の発言について説明したのとして適切なものを選択する | | 1 ア | | | | | ○ | | | ○ | | | 44.5 | 0.5 | 0.4 | |
| 1四 | 話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く | | | | 1 オ | | | ○ | | | | ○ | | 47.4 | 2.7 | 8.1 | |
| 2一 | 本文中の図の役割を説明したのとして適切なものを選択する | | | | | 2 ウ | | ○ | | | ○ | | | 37.4 | 1.1 | 0.3 | |
| 2二 | 本文中の情報と情報との関係を説明したのとして適切なものを選択する | | 2 ア | | | | | ○ | | | ○ | | | 75.3 | 0.1 | 0.4 | |
| 2三 | 本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する | | | | | 2 ア | | ○ | | | ○ | | | 65.1 | 0.6 | 0.3 | |
| 2四 | 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する | | | | | 1 ウ | | ○ | | | | ○ | | 43.0 | 0.4 | 7.2 | |
| 3一 | 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したのとして適切なものを選択する | | | | 1 ア | | | ○ | | | ○ | | | 81.8 | 0.4 | 0.5 | |
| 3二 | 物語の下書きについて、文中の語句の位置を直した意図を説明したのとして適切なものを選択する | 2 オ | | | | | | ○ | | | ○ | | | 53.0 | -0.8 | 0.8 | |
| 3三 | 漢字を書く（みちたりた） | 2 ウ | | | | | | ○ | | | | ○ | | 68.2 | -0.6 | 9.9 | |
| 3四 | 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する | | | | 2 ウ | | | ○ | | | | ○ | | 51.8 | 2.5 | 12.9 | |
| 4一 | 短歌に用いられている表現の技法を説明したのとして適切なものを選択する | 1 オ | | | | | | ○ | | | ○ | | | 54.5 | -0.4 | 2.0 | |
| 4二 | 短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える | | | | | 1 イ | | ○ | | | | ○ | | 49.2 | 0.9 | 3.9 | |
| 4三 | 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したのとして適切なものを選択する | | | 1 エ (1) | | | | ○ | | | ○ | | | 75.4 | -0.2 | 2.6 | |

④ 中学校 数学

〈正答数分布グラフ〉(横軸：正答数、縦軸：生徒の割合)

| 分類 | 区分 | 対象問題数(問) | 平均正答率(%) |
|-----------|----------|----------|----------|
| 学習指導要領の領域 | A 数と式 | 5 | 51.6 |
| | B 図形 | 3 | 40.5 |
| | C 関数 | 4 | 60.7 |
| | D データの活用 | 4 | 55.4 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 11 | 63.1 |
| | 思考・判断・表現 | 5 | 30.0 |
| 問題形式 | 選択式 | 5 | 58.6 |
| | 短答式 | 6 | 66.8 |
| | 記述式 | 5 | 30.0 |



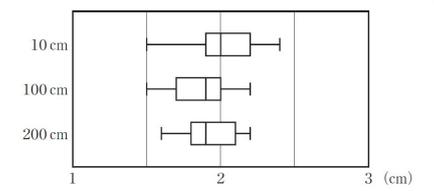
〈設問別正答率〉

| 問題番号 | 問題の概要 | 学習指導要領の領域 | | | | 評価の観点 | | | 問題形式 | | | 正答率 | | | 無解答率 |
|------|--|--------------|----------------------|--------------|-------------------|-------|--------|----|------|----|----|--------|-------|--------|------|
| | | 数と式 | 図形 | 関数 | データの活用 | 知識技能 | 思考判断表現 | 態度 | 選択 | 短答 | 記述 | 栃木県(%) | 全国との差 | 栃木県(%) | |
| 1 | nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す | 2(1) ア(イ) | | | | ○ | | | | ○ | | 37.7 | 2.9 | 12.4 | |
| 2 | 等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く | 2(1) ア(エ) | | | | ○ | | | | ○ | | 49.9 | -2.6 | 9.6 | |
| 3 | 正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ | | 1(1) ア(イ) | | | ○ | | | | ○ | | 68.4 | 0.1 | 0.2 | |
| 4 | 一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ | | | 2(1) ア(ア) | | ○ | | | | ○ | | 65.0 | -0.3 | 0.6 | |
| 5 | 2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める | | | | 2(2) ア(イ) | ○ | | | | ○ | | 71.3 | -1.8 | 4.3 | |
| 6(1) | 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める | 1(1) ア(イ) | | | | ○ | | | | ○ | | 89.9 | -0.3 | 2.2 | |
| 6(2) | 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する | 2(1) イ(イ) | | | | | ○ | | | ○ | | 37.2 | 1.3 | 21.8 | |
| 6(3) | 正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する | 2(1) イ(イ) | | | | | ○ | | | ○ | | 43.3 | 1.5 | 28.1 | |
| 7(1) | 障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める | | | | 小6 (1) ア(ア) | ○ | | | | ○ | | 74.7 | 0.4 | 5.2 | |
| 7(2) | 車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する | | | | 2(1) イ(ア) | | ○ | | | ○ | | 27.3 | 1.4 | 27.2 | |
| 7(3) | 車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ | | | | 2(1) ア(ア) | ○ | | | | ○ | | 48.2 | -0.3 | 0.7 | |
| 8(1) | ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ | | | 2(1) ア(ア) | | ○ | | | | ○ | | 83.8 | 0.4 | 0.6 | |
| 8(2) | 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する | | | 2(1) イ(イ) | | | ○ | | | ○ | | 16.7 | -0.4 | 14.8 | |
| 8(3) | 結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く | | | 2(1) ア(ア) | | ○ | | | | ○ | | 77.3 | 0.4 | 3.5 | |
| 9(1) | 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する | | 2(2) イ(イ) | | | | ○ | | | ○ | | 25.5 | -0.3 | 28.7 | |
| 9(2) | 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ | | 2(2) ア(イ) イ(ア) | | | ○ | | | | ○ | | 27.5 | 0.8 | 4.9 | |

【中学校数学 7 (3)】

出題の趣旨： 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる。
 平均正答率 県 48.2% (全国 48.5%) 無解答率 県 0.7% (全国 0.9%)

設定した位置から進んだ距離の分布



| | 設定した位置から進んだ距離 (cm) | | | | |
|--------|--------------------|--------|-----|--------|-----|
| | 最小値 | 第1四分位数 | 中央値 | 第3四分位数 | 最大値 |
| 10 cm | 1.5 | 1.9 | 2.0 | 2.2 | 2.4 |
| 100 cm | 1.5 | 1.7 | 1.9 | 2.0 | 2.2 |
| 200 cm | 1.6 | 1.8 | 1.9 | 2.1 | 2.2 |

段階1の速さで、障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。
- イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。
- ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。
- エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。
- オ 四分位範囲は変わらない。

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

- 正答である選択肢イを選んだ正答率が48.2%であり、複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することに課題が見られる。特に、誤答である選択肢イの反応率が22.6%であることから四分位範囲と範囲を混同していることや、選択肢エの反応率が11.8%であることから、四分位範囲がどの部分を表しているのかが理解できていないことが考えられる。

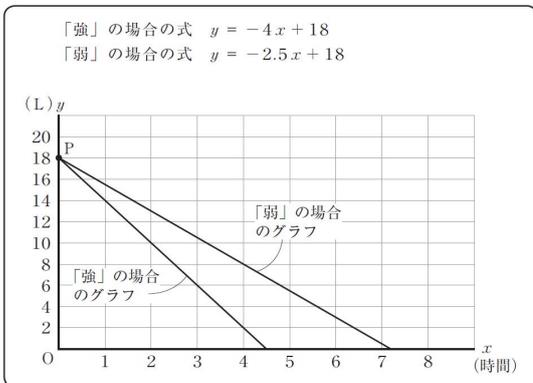
＜今後の指導に当たってのポイント＞

- 日常の事象を題材にした問題などを取り上げ、複数の集団のデータの分布を比較するために、箱ひげ図で表したり四分位範囲を求めたりしてデータの分布の傾向を読み取り、読み取ったことを基に説明するといった一連の活動を通して、四分位範囲の必要性と意味を理解できるよう指導することが大切である。
 指導に当たっては、四分位範囲が箱ひげ図の箱の横の長さを示すことや、箱ひげ図の最小値、最大値などの名称と位置を確認することが大切である。その際、四分位範囲はデータの散らばりの度合いを表す指標であり、極端にかけ離れた値が一つでもあると、最大値や最小値が大きく変化し、範囲はその影響を受けやすいが、四分位範囲はその影響をほとんど受けないという性質があるため、複数のデータの散らばり具合が比較しやすいことを、実感を伴って理解させたい。

【中学校数学 8 (2)】

出題の趣旨： 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
 平均正答率 県 16.7% (全国 17.1%) 無解答率 県 14.8% (全国 16.4%)

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらかを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

- ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$
- イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

＜類型から見られる本県生徒の実態＞

- 正答の条件とそれぞれの根拠を十分に示せた生徒の割合は16.7%であった。誤答の反応率や無解答率を見ると、グラフのどの部分が使用時間の違いを表しているのかを理解しているが、その違いを的確に表現することができなかった生徒や、そもそもグラフのどの部分を見ればよいのかに気付いていない生徒もいることが考えられる。
 特に、選択肢アを選んだ生徒の誤答の中には、式が2つあることから、連立方程式を解き、出てきた答えが使用時間の差と解答している生徒も見られた。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

- 数学を用いて様々な問題を解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、数学的な表現を用いることで、相手が理解しやすくなるなど、数学的に表現することのよさを実感できるように指導することが重要である。
 指導に当たっては、本設問のように、問題解決の過程において、式やグラフをどのように用いればよいかを説明することが考えられる。その際、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げて、正しく説明するためにはどうしたらよいのかを考えさせることも有効である。また、説明の場面においては、示された式やグラフの傾き、グラフのx軸やy軸との交点（もしくは、x切片、y切片）などが、何を表しているのかを問い返し、全体で共有することが大切である。このように式・表・グラフを別々に考えるのではなく、関連付けて考えることを意識させたい。

2 児童生徒質問調査の結果から

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する状況

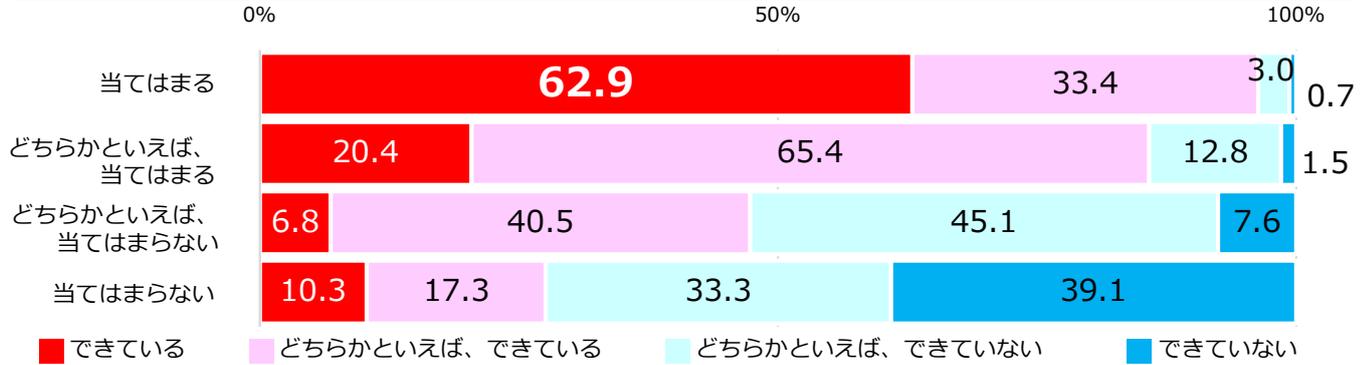
課題解決に向けて、自分から取り組んでいる児童生徒ほど、「自分で学び方を考え、工夫している」と考えたり、「自分によいところがある」と感じたりしている傾向があることがわかります。また、課題解決に向けて、自分から取り組んでいる児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。



小学校

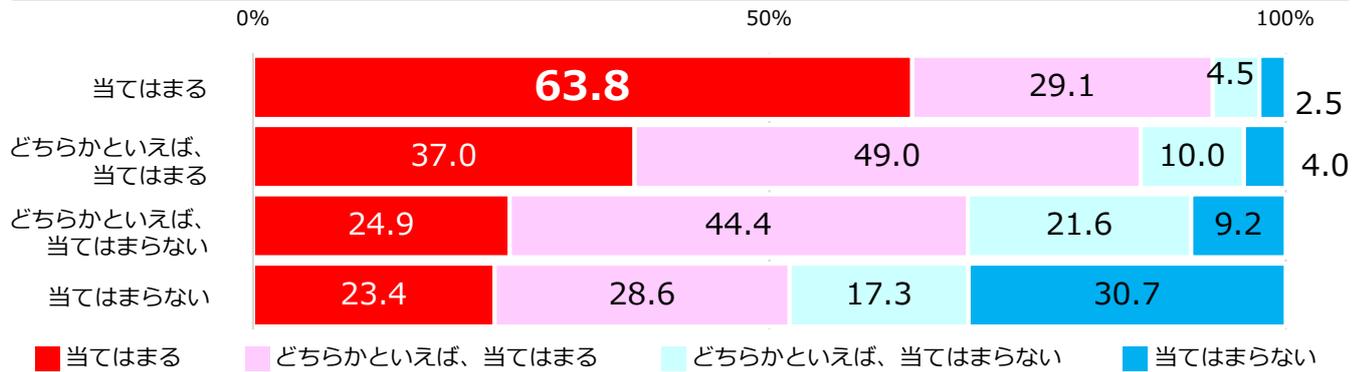
【課題解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【自分で学び方を考え、工夫】

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



【課題解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【自分には、よいところがある】

自分には、よいところがあると思いますか。

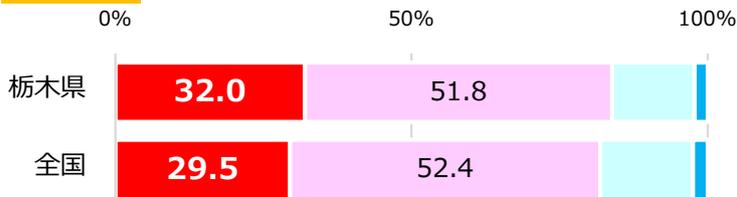


※ これは小学校6年生を対象にした分析結果ですが、中学校3年生の結果にも、同様の傾向が見られました。

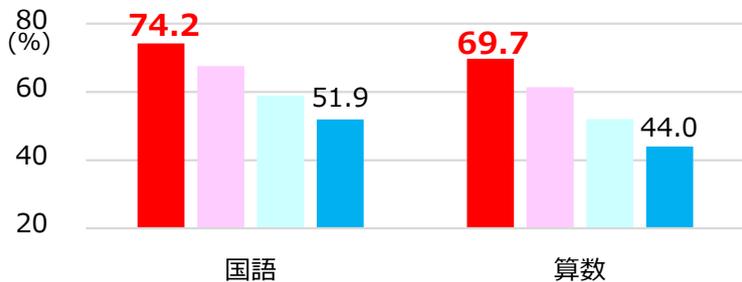
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

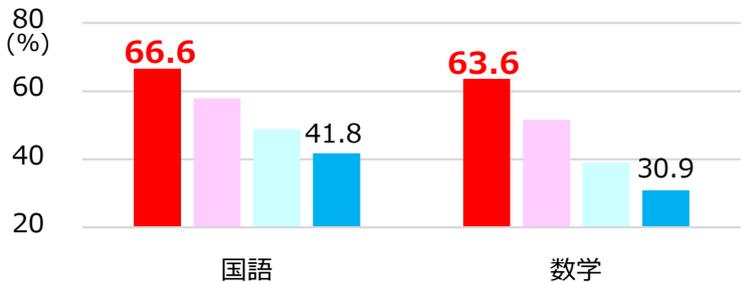
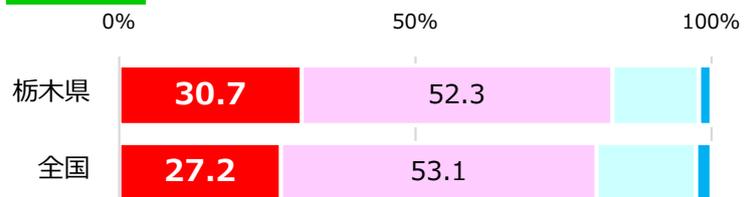
小学校



【選択肢ごとの平均正答率】



中学校



(2) ICT機器活用の効力感



自分から課題解決に取り組むなど、主体的に学習に取り組んでいる児童生徒は、ICTを活用することについて、どのように捉えているのでしょうか？

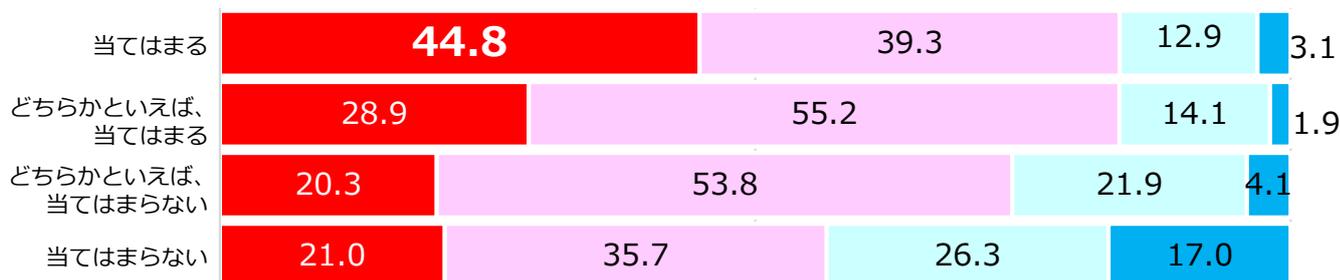
調査結果から、自分から課題解決に取り組むなど、主体的に学習に取り組んでいる児童生徒ほど、ICTを活用することで「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と捉えている傾向にあることが分かります。
 なお、栃木県は、小、中学校ともに全国平均と比べ、ICTを活用することで「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と捉えている児童生徒の割合が高いことが分かります。



中学校

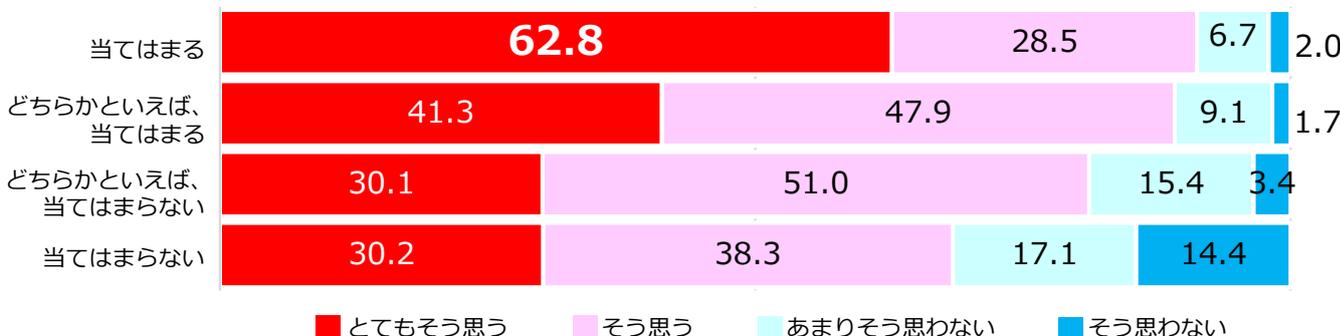
[課題解決に向けて自分から取り組んだ] × [ICT活用で自分のペースで学習できる]

ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか。



[課題解決に向けて自分から取り組んだ] × [ICT活用で友達と考えを共有・比較できる]

ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思いますか。



※ これは中学校3年生を対象にした分析結果ですが、小学校6年生の結果にも、同様の傾向が見られました。

小学校5年生まで〔中学校1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

小学校

中学校

自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

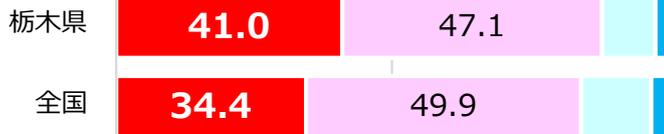
(3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する状況

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

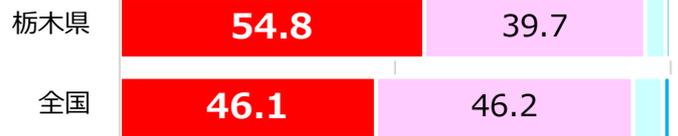
小学校

中学校

【個別最適な学び】 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



【協働的な学び】 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



栃木県では、小、中学校とも、全国平均と比べ「個別最適な学び」や「協働的な学び」に取り組んでいる割合が高いことが分かります。

これらの学びを一体的に充実させることによる効果を検証するため、この2つの質問に対する回答状況によって、個別最適な学びと協働的な学びの両方に取り組んでいるグループ（個〇協〇）、個別最適な学び・協働的な学びのいずれにも取り組んでいないグループ（個×協×）など、児童生徒を4つのグループ（個〇協〇、個×協〇、個〇協×、個×協×）に分け、分析を進めました。

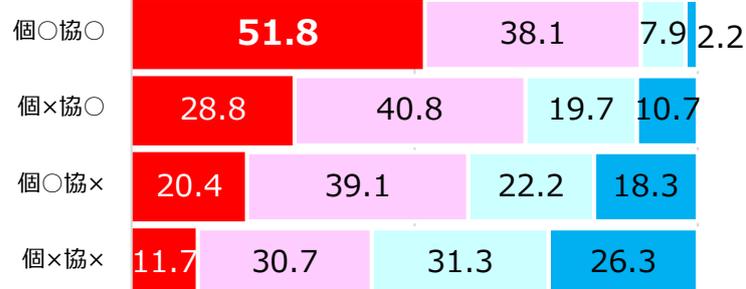
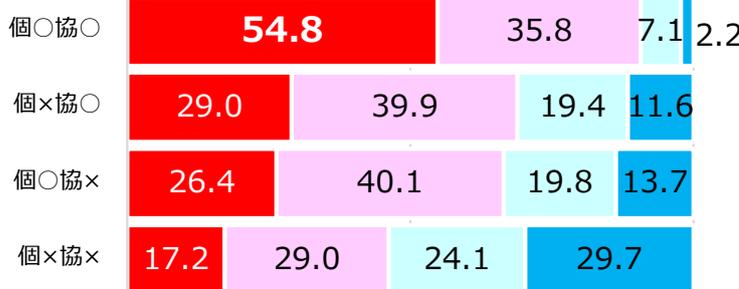
【個別最適な学び】 × 【協働的な学び】 × 【学校に行くのは楽しい】

○ 「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」 × 「どちらかといえば、当てはまらない」または「当てはまらない」

小学校

中学校

学校に行くのは楽しいと思いますか



小、中学校とも、個別最適な学びと協働的な学びの両方に取り組んでいるグループ（個〇協〇）ほど、学校に行くことを楽しいと感じている傾向にあることが分かります。

この傾向は、「国語や算数・数学の授業がよく分かる」や「自分にはよいところがある」等の質問について分析した結果においても、同様に見られました。

また、下のグラフのように、「個別最適な学び」や「協働的な学び」に取り組んでいる児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあることが分かります。

